

第3回 武庫川リバーミーティング

議事録

日時 平成17年1月29日(土) 13:30～16:30

場所 篠山市立四季の森会館

黒田 それでは定刻が参りましたので、第3回目の武庫川リバーミーティングを開催させていただきます。私、事務局の黒田です。よろしくお願いいたします。

本日の出席委員でございますが、20名の委員の方に出席をいただいております。

最初に出席委員の紹介を私の方からさせていただきたいと思っております。

(出席委員 紹介)

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に、一番上に参加者へのお願いというA4 1枚ものがあると思います。本日は、流域委員会の委員と流域の住民の皆さんで意見交換をしていただく場でございます。発言につきましては、挙手の上、司会者の指名を受けて、マイクを通してご発言ください。発言の際には、お名前とご住所を、例えば篠山市の黒田ですという形をお願いしたいと思います。

議事録の関係ですが、発言者でお名前を載せたくないという方がおられましたら、発言の際にその旨お聞かせいただきたいと思います。それから、議事録につきましては、録音と速記でつくる形にしております。本来、議事録といえますのは、発言した内容をそのまま記載するというので、テープを起こしてしますので、一般参加者の発言につきましては、一人一人の議事録の確認というのは行っておりません。議事録を整理した後、ホームページに掲載、公表しますので、後で見られて、テープ起こしなどで間違いがあるといった場合がございます。事務局までご連絡願いたいと思っております。

その用紙の裏側はアンケート用紙でございます。本日の意見交換の中で、意見を言い逃したとか、その他感想がございましたら、入り口のところに意見箱を設置しておりますので、記載していただいて投函をお願いしたいと思います。後日ファックスか郵送でも可能でございます。リーフレットとかニュースレターの後ろに事務局の番号を書いておりますので、そちらの方に送っていただきましたらありがたいと思っております。

下段に氏名と連絡先という欄がありますが、できるだけ書いていただくということで、書ける範囲をお願いしたいと思います。特に、住所につきましては、あと、どここの地域の方からどういう発言があったという分析などに使わせていただきたいと思いますので、可能な限り住所は書いていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

次に、配付資料一覧というA4の紙がございますが、本日の資料につきましては、参加者からの意見書、それから、ニュースレターの第3号、これは武庫川づくりという名称で発行しているものでございます。それから、武庫川流域委員会のリーフレット、リバーミ

ーティングの開催案内チラシでございます。参考資料としまして、リバーミーティングは今回3回目ですが、これまでの1回目、2回目で配付した資料、これは閲覧コーナーに置いておりますので、必要な方はお持ち帰り願って、参考にしていただきたいと思います。下段の方に、流域委員会資料等（閲覧）としておりますが、これはこれまでの流域委員会なりリバーミーティングの議事録等を置いておりますので、この分につきましては、閲覧という形で利用していただきたいと思います。

資料の関係につきましては以上でございますが、よろしいでしょうか。

最後に、1点事務局からお願いがございます。このリバーミーティングにつきましては、内部記録ということで、カメラで撮影させていただいております。できるだけ個人が特定されないように、留意して撮影させていただきたいと思いますので、ご了承願いたいと思います。もしどうしてもだめだという方がおられましたら、カメラが向いたときに、やめてという形で言っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、具体のリバーミーティングに入らせていただきたいと思います。開催にあたりまして、委員長から一言ごあいさつを申し上げます。

松本委員長 本日は、土曜日でございますが、たくさんの方にお集まりいただきましてありがとうございます。当武庫川流域委員会、昨年3月にスタートして、既に本委員会を11回、運営委員会を14回、リバーミーティングを2回重ねてまいりました。10カ月足らずでかなり精力的な審議を続けてきております。リバーミーティングというのは、本委員会でいろんな議論をしていく、あるいは委員会で傍聴者の方にもご発言をいただいておりますけれども、十分な時間がなかなかとれないということで、じっくりと住民の皆さんのご意見に耳を傾け、できれば委員と住民の皆さんの間での意見交換の場にしたいという、一種の公聴会をさらに住民参加度を高めたものとして設定して、大体2カ月に1回ぐらい開いていこうというふうに計画しているものでございます。

武庫川流域委員会のことについて、冒頭に若干ご説明をさせていただきます。

この委員会は、兵庫県が武庫川という川の河川整備の基本方針、基本整備計画を策定するにあたって、住民が参加したもとの策定したいということで、知事から諮問を受けた県の諮問機関でございます。このような新しい流域委員会というのは、兵庫県内では既に国の管理下にある加古川とか揖保川とか円山川でやっておられます。兵庫県管理の河川では、3年前に発足した千種川に続いて武庫川が2つ目でございます。97年、8年前に大改正されました新しい河川法に基づいて、新しい河川計画をつくるというねらいでやっております。

すので、どのように運営していったらいいか、どのように住民が参加していくのかというのは、いわば手探りでやっている委員会と言ってもいいかと思っております。

そんな中で、私たちは、この委員会を発足するまでに、さらに1年前に準備会議というのが1年間くらい十数回の会議を重ねて、この委員会の性格とか運営の仕方、あるいはメンバー選定をやってきました。そういう意味で、これまでにない、従来の諮問機関とは全く違う議論をして、住民が参加して、住民の声が十二分に反映できる河川計画をつくろうというのが趣旨でございます。

武庫川では、二十数年前から武庫川ダム計画というのがございまして、その計画をめぐって、この計画に対して反対する住民団体と兵庫県の方が対立した状況が20年近く続いてきました。住民が全く参画できない、そういう川づくりの時代の不幸な対立の歴史がございます。この歴史にピリオドを打とうということで、4年余り前、2000年の秋に、兵庫県がダム計画を白紙の状態から議論し直して、新しい法律に基づいた住民参加の委員会で新しい計画をつくってもらおうというふうな方針を出して、4年かけてやっとたどり着いたのが今日の状況でございます。

したがって、私たちのこの委員会は、兵庫県の既存の計画を原案として議論しているのではございません。委員会が新しい考え方に基づいて、新しい河川整備の計画をつくるというのがこの委員会の出発点でございます。当然ながら、議論の過程では、河川管理者である県がどのように考えているのか、あるいは従来どのような計画を持ってきたのか、あるいは現時点でどのような考え方を持っているのかということをご説明をさせていただいて議論するわけでありまして、が、私たちは、それは一種のたたき台として、私たちが議論をしていく上のベースとして十二分に議論をするというふうな考え方に立っております。

昨年3月、この委員会が発足するにあたって、既存の県の委員会というのは、結論が決まっていて、事務局の原案に沿って議論をしていって、それで終わりだというふうに、長年たくさんの住民、市民は思ってきました。しかし、今流れが大きく変わってきております。住民、市民がみずからの責任をもって、みずからの居住環境をつくっていく、川づくりのあり方を決めていくという時代に入っております。

そうしたことを十二分に認識しながら、当委員会はあらゆる観点から川づくりを検討していきたいというふうに取り組んでいるわけでありまして。できれば、武庫川発の武庫川モデルというものを武庫川の河川整備計画に盛り込んでいきたい、あるいはその策定プロセ

スでも、かつてないような新しい、武庫川らしい策定プロセスを歩んでいきたいというふうに、25名の委員が長時間議論を重ねながら進めております。ぜひこうした考え方をご理解いただき、一緒に武庫川づくりに参加していただきたいと思っております。従来のように、対立構造の中で物を考えるのではなくて、私たち自身が新しい川づくりをやるんだというふうな考え方で委員会に臨んでおりますので、ぜひ皆さん方のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

リバーミーティングは、前2回、私が司会進行させていただきましたが、きょうは、中川芳江委員の司会進行のもとに進めてまいりたいと思っておりますので、ご協力をよろしく願います。ありがとうございました。(拍手)

司会(中川委員) それでは、ここから先は、ただいまご紹介いただきました私中川の方で進行させていただきます。リバーミーティングとして初めての試みですので、進行のご協力をよろしくお願いいたします。

早速、リバーミーティングに入っていこうと思います。本日のテーマは、「今の武庫川、これからの武庫川」ということで、既に皆様のお手元にご案内させていただいております。非常に範囲が広いので、途中で休憩を入れて、前半と後半でテーマを絞ろうかと思っております。前半では、せっかく篠山の上流域に来ておりますので、上流域にかかわる具体的なお話、現状はこうだよとか、今こんな課題があるんだよとか、三田を入れていただいても結構だと思いますけれども、上流域にかかわる話にテーマを絞りたいと思っております。休憩を挟んで後半は、上流、下流の交流、それ以外にかかわる話題、本委員会の方で議論をしている計画規模の話、あるいはもっと流域全体にかかわるようなお話とか、きょうも意見書をちょうだいしておりますが、その辺をやろうかと思っております。厳密には分けられないと思いますが、大枠そんな感じでご協力をいただけたらと思っております。このぐらいの人数ですので、委員会ではなかなかできない議論をざっくばらんな雰囲気ですきたらと思っております。

事前に発言希望を4名の方からちょうだいしておりますので、最初にその4名の方に、前半で発言するのがいいのか、後半がいいのかを確認させていただきたいと思っております。

吉田 多分後半の方だと思います。

森脇 委員会としての話を後半で聞かせてやろうということですがけれども、先に出してもらった方がうれしいと私は思うんですけれども。

疋島 後半の方で。

笹倉 川の方だったら、上流部の現状ということで、生物から見たものを1つ、それから、自然保護活動というのはどういうふうにするかというのを、私なりのデータを持って発表しますので、できたら、後半がありがたいです。そしたら自由にできますから。

司会 それでは、まずご希望いただいている方からご発言をいただきたいと思います。その後、きょうぜひという方に順次マイクをお渡ししたいと思います。

それでは、森脇さんの前半の方でというお話からお願いします。

森脇 委員会の決められたことを後半に説明するとおっしゃっていただきましたでしょう。それを先に聞かせてもらうことにおいて、私たちは発言しなくてもよいというふうなことが起きてくるのではないかと思いますので、委員会のこれまでの事情を聞かせていただきたい。

司会 概略のところは委員長の方からお話があったんですけども、もう少し詳しくということですか。

森脇 後で委員会のこれまでの経緯を聞かせていただくことを、先に聞かせてもらった方が、私たちは発言しやすいと思うんですが、皆さんどないでしょうな。

司会 そうしましたら、本委員会、あるいはリバーミーティングに初めてお越しいただいている方、お手をお挙げいただけますでしょうか - -。

ありがとうございます。そうしましたら、委員長の方から、ダイジェストになるかと思えますけれども、今までの委員会の大きな流れを少しお話しただいて、上流域の話、全体の話と、そんな感じで、ちょっと軌道修正させていただこうと思います。

松本委員長 それでは、時間をとらないように、極めてかいつまんで、大きな流れだけ申し上げます。

先ほど申し上げましたように、10カ月近く議論を重ねてきましたけれども、前段は、どちらかと言えば、本論に入っていません。どのように議論を進めていくべきかということ、あるいは委員会の運営等について、数カ月費やしました。私たちが何を議論をして、どういう手順でもってこの治水計画をつくっていくのかという全体議事フローという全体の流れを昨年秋につくり上げました。その中では、まず治水の対策、治水はどうあるべきか、どのように治水を考えていくのか、治水の計画規模をどのように設定するのか、あるいは治水計画のもとになるとされている基本高水、計画高水をどのように設定していくのかということをもまず決めていこう、議論していこうというふうになりました。そして同時に、治水の問題は、利水と環境の問題を抜きにできない。川の洪水、水の流れを制御することだ

けではなくて、流域全体の中で、降った雨をどう受けとめていくのかというふうな観点も極めて重要でございます。いわゆる総合治水という観点から、川の中だけではなくて、流域全体で雨を受けとめて処理していくというふうな考え方に今大きく変わってきていますから、そういう観点から、利水や環境、まちの状況も含めて議論をしながら、どのような治水計画を立てるのか、河川の治水対策は具体的にどのような整備計画が必要なのかというところへ向かっていく。こういう流れで議論をするように、昨年秋にようやく筋がまとまりました。

同時に、具体的に治水計画についての議論が始まりました。きょうお手元に、3号のニュースレターが入っております。ここには2回にわたる治水の計画規模、いわゆる治水安全度をどうするかというふうな議論、議事録をさらに概略にまとめたものが入っておりますが、そうした議論を重ねてきました。12月の議論では、その中からまず治水の計画規模を100年に1回の大雨、大洪水を想定する。通常言われる1/100、100年確率のそうした安全度を想定して、議論を進めようではないかという話がありました。ただ、1/100というのは、旧の河川整備計画と同じ計画規模であります。このことについては、委員の中でも随分議論がございます。ただ、治水の計画規模をいずれかに設定をしなければ次の議論になかなか進めないということから、私たちは、まだ議論が不十分な点があることは承知ですが、どのような規模にすべきかということは、その後の治水対策を考える中で裏づけをしていくということしかできないのではないかなというふうな観点もあって、とりあえず100年確率の規模からスタートしましょう。ただし、これがどうしても不都合であるというふうなことが出てくれば、もう一度それを見直すこともあり得るという前提で、今議論に入っております。

1月14日の前回の委員会では、そうした流れの中で、今度はどのような雨が想定されるのかという降雨量等の設定についての議論に入ったばかりであります。本格的な議論に入って、1月14日で3回か4回目ぐらいの議論になると思いますが、これからますます本格的な議論に入っていくという段階でございます。

その中身の話というと大変長くなりますので、大きな流れとしてはこれぐらいにさせていただきます。

司会 大変大きな流れというところで、委員長の方からまとめてお話をいただきましたが、要するにまだ議論の途中であるということでございます。

そういうところで、上流の方に初めて来させていただきましたので、早速、上流の方の

話に入りたいと思います。

それでは、篠山の笹倉様の方からお願いいたします。

笹倉 篠山中学校の笹倉です。この場でいきなりということは思っていなかったんですが、私の方は、生き物、人、活動、川と生活という話で、まとめていきたいと思っています。

武庫川の上流とは違うんですが、篠山川の上流にはいろんな生き物がおります。去年の夏、子供たちと一緒に遊んでいたとき、川へ行きたいといってちょっと行ったら、5分の間にドジョウとツチガエルがいきなり出てきました。ドジョウは、今兵庫県版のレッドデータブックBランク、ツチガエルはCランク、アカザもいるということで、生き物が豊富なところなんです。また、オヤニラミもいましたが、工事のために篠山市内では絶滅したと聞いております。

ところで、人ですが、魚がいっぱいいて、きれいな川なのに、なぜか食べません。川で子供が遊びません。その理由をご存じですか、教えてください。

活動ですが、私がちょっと不思議に思うのは、琵琶湖でよく成功しているんですが、川にヨシを植えると浄化作用が働くというふうに聞いております。しかし、篠山上流では、村の活動として、ヨシを刈ることをやっております。また、下水道完備によって、見た目は汚れるものはないと言われますが、私どものところでは、昔からくみ取りをやっておりまして、川には何も流れません。下水道完備のために、無機物がいっぱい流れ、植物プランクトンが多くなり、ラン藻がふえ、水が汚れて臭くなるという現状があります。

こういうことから考えまして、私ども人間の知恵というのはなかなか大変ですが、昔のように川と生活をともにしたいということで、まとめてさせてもらいます。

司会 今、OHPが出ていますが、モリアオガエルの話は……。

笹倉 これは福知山の話で、環境保護活動とはこういうふうにするという意味で、本題とはずれていきますので、もしよろしければ、後でと思ったんですが。

司会 ここのモリアオガエルについて、何かありましたら。

笹倉 5年ほど前、組織的にモリアオガエルの卵を調べようという調査をやりまして、私の学校 - - 当時は篠山東中学校と近隣の中学校の理科の先生、それから、丹波農村ビオトープ連絡会、篠山自然の会の人たちの協力によって、篠山市全域にモリアオガエルがどれだけ生息しているかがわかりました。結果、どこにでもいる、何も珍しくないということがわかったので、丹波の森はまだ大丈夫だな、いつまでもつかなと思ったぐらいです。

きょうは資料を持ってきていないので、そのぐらいにしておきます。

司会 あと3名の方は、後半の方でご発言ということですので、ここからは、事前に予告しておられない方も含めてのご発言を承っていきたいと思います。

永井 三田から参りました永井といいます。

私は、土谷さんと同じように、三田で、温暖化防止の推進委員をしています。それとは異なって、武庫川に関する関心は、私はほとんど一生武庫川のへりで過ごしていきまして、下は川口から篠山まで、きょうも、武庫川の水源地へ車で行って、水源地の川のあたりを全部見て、ここへ来ました。

言いたいことがいっぱいあるんですが、上流に関して、これは委員の法西先生が書かれています。特異な植物が1つあります。それはオグラコウホネです。例の京都の巨椋池に生えていたコウホネの一種なんです。このオグラコウホネが上流に自生しています。法西先生は、小柿の方、武庫川の支流の上流ですが、あそこは今でもきれいです。ところが、きょうもトウヤ(当野)というところを通ってきたんですが、その辺は昔はコウホネが自生していましたが、ちょうど工事をしています。今も話にありましたヨシ - - 僕は、ヨシとアシは同じかということで、この年になってもまだヨシ・アシがよくわからないんですが、いずれにしろ、あの辺は自生していたと当野の人が言うんです。それで、去年からずっと見に行っていますが、ひとつもありません。しかし、小柿の方はあるんです。あそこはきれいですから。

今河川工事をしているのも、きょうも見てびっくりしたんですが、護岸をコンクリートで固めようとしている。そういうことは、これからのああいう植物、自然を保護する上でいいのかどうかということを考えながら、ここへ来て一遍意見を言おうと思っていたんですが、最近はやりのビオトープという考えで、住民の人たちを入れて考えていけば、ああいうような補修はしないだろうと思います。しかも、上流から水を流して、下流まで至ります。当野の辺でちょっとおりますと、どぶのにおいがするんです。これはドブガイがいっぱいいる。ちょっとした溜めにドブガイが30個か40個そのまま置いてあります。どうされるんですかと言うと、ともかく置いてあるんですとおっしゃいます。それぐらい汚れたことは事実です。

私は、三田に住んで、福島朝市に行きまして - - これは老人会がやっているんじゃないかと、70歳以上のお年寄りの方が十数人でやっているんですが、そこでいろいろ話をしますと、福島の大池からずっと流れてくるその辺は、戦前、川で泳いで、しかも川べりに出てくる水は飲んだというんです。考えられません。

それから、1週間前、私は、けやき台の小学校の5年生の授業で呼び出されて行ったんですが、武庫川はきれいか汚いかというテーマで学習をしまして、一緒についていったんです。ごみがいっぱい、当野と同じように、武庫川の中流と申しますか、上流の下の方でも、臭いにおいがいっぱいです。これは温暖化の問題も当然あるでしょうが、上流からの治水を含めまして、やはり管理ができていない。子供たちはそれをどのように考えるかというのは、先生方がまとめさせていると言っていました。私も、8日にもう一遍行こうと思いますが、まとめる上で、三田にある人博の専門の先生が行ってまして、子供たちがどう感じ、どういうようにその自然を考えるか、これは非常に大事なことだと思っています。

私自身も、今、土谷さんと一緒にエコクラブというのをつくっています。温暖化防止のための一つの会で、初めてとし、子供たちと一緒に自然を考え、温暖化を防止するにはどうしたらいいかというのを考えようということです。

いずれにしろ、上流というのは、下流に対して非常に問題が多いと思います。それを治水しなければ、いろんな問題がだめになると思います。特に、武庫川の上流は特異だと思います。昔沼であった篠山を源流にしています。1つの源流、有名なお寺がありますね、そこから流れている源流はまだ比較的きれいですが、ため池のようになったところから下は、きょうも見てきましたが、ごみだらけです。その下は、コンクリートで固めようとしているんです。これでは自然は保てないと思います。そういう意味では、もっと流域の人と一緒に考えた川づくりをしていただきたいというのが私は希望なんです、委員の方の意見を求めたいと思います。

田井 篠山の田井と申します。よろしく申し上げます。篠山の高校に勤めております。

武庫川をテーマに、よく生徒たちと色々なことを調べたり研究したり、ボランティアで、子供たちに川のおもしろさを教えたりということをしております。高校生と武庫川に行って、魚を捕まえたりしているんですけども、今の高校生でも、小さいころ川に入って遊んだことがないという子供たちが多いです。上流の方に住んでいるから、川がきれいから、みんな川遊びしているんだろうなと思っても、そういう経験をほとんどしないまま小学校、中学校を過ぎて、高校生になって来ていると。そのまま大人になっていくと、どうなるのかなということを心配に思っています。

今、武庫川は、上流の方は、川遊びとかができるような環境があるはずなのに、ほとんどの子供たちが川で遊んでいない。町中の子も田舎の子も、同じようにゲームとかして、

自然にふれてそういう体験をしていない子供たちが多いのが現状です。そういうふうな子供時代を過ごして、そのまま大人になっていくのは非常に心配なことです。最近、凶悪な犯罪とか、いろんな事件が起こりますけれども、幼いころからの体験活動をしていない、命のとうとさをわからないまま大きくなっていった人が、いろんな凶悪な犯罪を起こしているんだというふうに思います。小さいころから、虫とりをしたり、魚とりをしたり、そういう自然を体験するような遊びをして育っていくと、健全な心が培われるんじゃないかと思います。

武庫川の現状はどうなのかと考えていきますと、工事をされていて、川に近づきにくいようなところがたくさんあります。危ないから川に近づくなというふうに大人は子供たちに教えています。そういうことで本当にいいのかどうかという心配を私はしております。できれば、子供たちが気軽に川に行って、川に入って遊べるような、いろんな生き物を捕まえることができるような場所をつくってほしいと思います。よく都会の方では親水公園とかありますけれども、コンクリートで固めて、安全な深みもないようなところをつくって、そこで遊びなさいと。それだったらプールと同じですので、自然のところで遊ぶというならば、もうちょっと考えた形をつくってほしいと思います。

それから、遊水地をつくったりなんかして、洪水のときには水がそちらに流れるような場所をつくって、ふだんはそこはピオトープのようなもの、あるいは公園のようなものをつくって、気軽に家族で楽しめて、武庫川とつながるような環境もつくっていただけたらなと思います。

松下 三田から来ました松下といいます。

上流部の河川について、いろいろな問題点があるということで、今もお話が出ました。地元の人に喜んでもらえるような川づくりという話ですけれども、ここに来られている方は自然に関心のある方が多いですから、こういう話をするとおかしいと思われるかもわかりませんが、行政の方はよくご存じでしょうが、地域の集会で、河川についての工事をやるといったら、コンクリートで固めてくれという発言がすごく多いわけです。

例えば、相野川を見てもらったらわかりますけれども、三面張りで、しかも土手までコンクリートを張っています。地域の方が草刈りをするのがかなわんから、堰堤までコンクリートを張ってくれと。そういうのが地元の多くの意見です。その中で、多様な生命が生きる川づくりをするということは非常にエネルギーが要ります。ですから、非常に時間はかかるけれども、行政の方も地域の中に入って、どういう川づくりが地元にとっても利益

があるんだというふうな話をしていくと。

先ほど子供の話も出ましたが、子供を川へ連れていこうということになると、一番反対するのはPTAです。お母さん方は、とにかく安全、子供に危険なことをさせたくない。一部の理解あるお母さん方は、川へ連れていこうということで、僕も川遊びをする会をやっていますけれども、参加者は非常に少ない。地域で子供たちを集めても、うちは塾へ行かんなんからといって、来ない子の方が多い。そういう現実があるわけです。

ここに集まっている人たちは、多様な自然がある川づくりと言いますけれども、そのためには、こういうふうな川づくりをすれば、地域にこういうふうな利益をもたらすという話をしていけないと非常に難しいと思います。

それから、武庫川上流では、先ほど勾配が非常に緩いという話も出ましたように、土砂が堆積する。これは必ずしゅんせつをしなければいけません。今、草野の上流部でしゅんせつをしていますよね。しゅんせつをしているから、あかんというふうな話をすれば、非常にやりにくい。だから、地元とどうやってその辺の折り合いをつけていくかということが非常に大事だと思います。一度に何十キロにもわたってしゅんせつをするというふうな方法ではなくて、地元の理解を得ながら、少しずつしゅんせつしていく。しゅんせつなしにはいかないだろうと思います。

先ほどオグラコウホネの話も出ましたが、当野地域のオグラコウホネは、私がおります三田市藍本の大安橋のところを一時避難をしているというふうに聞いております。ですから、工事の仕方も、都会の人、町の人から見れば、何という工事だということもありますけれども、やはり地元との話し合いを徹底的にする。例えば、堰堤の草刈り、僕も百姓ですから、川のすぐそばにある田んぼを持っていますから、堰堤の草刈りもついでにやります。

そういうことも、川の周りに住んでいる住民が、川のことを愛して、少しでも川のためにとするためには、物心とものサポートが必要です。そのために、どういうふうな組織をつくって、どういうサポートをするか。今河川愛護という制度がありますが、草刈り機の燃料を少しと手袋をもらっているだけでやっているわけです。地元も、いろいろな地域で、川に対する関心を持たせて、それを自分の川だ、愛する川だと思わせるためには、いろいろな財政的な援助が必要だというふうに思います。

笹倉 ご返答になるかわかりませんが、今の話を聞いて、2点、私の考えていることを述べさせてもらいたいと思います。

まず、子供を川へということ、PTAに理解をと言われましたが、既に準備は着々と進んでいまして、私、この前、パワーポイントで、篠山市の貴重な珍しい生き物というものをつくりました。いろいろな方にご協力いただき、画像をいただいて、そこになるべく少ないコメントとレッドデータブックのどのランクということを書いています。40枚ほどのスライドですが、その中に、武庫川にもいるトゲナベブタムシの画像が入っていますし、めったに見られないカワセミの巣も入っています。これは道德の時間で行います。自然を愛することから、心から自分を愛するという自尊感情を生まれさせようというねらいです。

私、これは自分だけの宝ではありません。ことしの3月か4月に市内の小中養護学校全部に配りますし、パワーポイントだけではなくて、残り3つとホームページビルダーも配ります。説明も加えますし、講習会もします。

そういう形で、段階を追って子供たちが自然に親しむような方向へ持っていく。篠山にもこんな珍しいものがあるんだと。日本に2カ所しかいないと言ったら、喜ぶでしょう。兵庫県でも二、三カ所しかないと言ったら、喜びますね。そういうことを加えます。それを子供がお父ちゃん、お母ちゃんに話をして、近くにおるらしいで、行ってみようというのも、一つの手ではないでしょうか。そして、親同士が話し合う中で、地域の人にも、篠山で、こんなに自然豊かなのかという話の段取りがあってから、コンクリートで固めてほしいということについての話もあるんじゃないでしょうか。

いずれにしても、最後は金の問題です。普通にやるよりも、手の込んだ工法でやるには金が要ります。どうかお金を下さい。

以上です。

酒井 篠山市の酒井でございます。

先ほど地名を間違えて、トウヤとおっしゃいました地域の流域に住んでいる住民でございます。アシを全部川底からさらえて、コンクリートを張るんだらうなというトンでもない憶測で物を申されました。地域住民の心を逆なでするような発言、また篠山川の話が出ましたけれども、篠山川は、武庫川の源流からはるか東の方でございます、武庫川は真南条上を源流としております。現在の武庫川の上流と申しますのは、真南条から不来坂、日出坂を越す間の昔の丹南区域に存在する区間でございます。

私の当野地区におきましても、2キロ余りの流域を持っております。それは、話が長くなりますので要約させていただきますが、昭和45年ごろから土地改良によって皆自分の田んぼを減歩して、あの川幅を広げた。それまで毎年冠水して、黄化萎縮とか何とかいって、

稲がとれなかった。一遍冠水すると、4日も5日も水が引かない。というのを、地域住民が憂えて、大切な土地を提供して、一部買収もありましたけれども、その減歩によって川幅を広げた。そういう歴史を持っております。

ところが、その後、全然川底をさらえるという工事がないために、おっしゃいましたように、河床にヨシがどんどん生えて、小さな川を通じて武庫川へ入っておりますけれども、その支川の工事による土砂、あるいは洪水のときの土砂が、すべて私どもの緩やかな勾配しか持っておらない河川にたまるわけなんです。したがって、我々地域住民、50戸ほどの人間なんですけれども、毎年1日50人ほどが草刈り機を持って奉仕して、周囲の草を刈って、ヨシなんかもできるだけ刈ってするんですけれども、川の中に中洲ができて、そこにヨシがどんどん生えていく。

したがって、土地改良して喜んだのもつかの間、忘れもしませんが、平成8年8月28日、大洪水が出ました。近畿舞鶴線のトンネルが土砂で埋まったあの洪水でございますが、そのときに、河床が上がって、田んぼの水が流れ込むはずの水路が埋まってしまって、水が流れなくなったという状況において、初めて地域住民の願いが通って、今川底をさらえておるんでございます。つくったときの川よりも深くしておるんでも何でもございませぬ。もちろん、護岸にコンクリートを張るなんていうことは、及びもつかぬことでございます。

それから、希少動植物についてのことなんですけれども、地域住民としましては、そういったものが、我々の地域のような泥沼地帯のしかも緩やかな流れのところにしか育たないのであれば、何とか川底をさらえて、河床を安定させた上にまた戻して、我々の地域で育ててくださいというふうをお願いをしております。そういうものを頭から否定するものではございません。

治水というものは、地域住民にとりましては、生活を脅かすものと同時に、我々農業を営んでおります住民にとりましては、自分の生産基盤を脅かすものでございます。植物、動物、希少価値のあるものを我々は大事にしなきゃならぬということがございます。大事にする方法を考えていただければいいのであって、我々流域に住んでいる住民は、快くそれを受け入れたい。とりもなおさず、流域に住んでいる住民が不安のないような河川の管理をしていただきたい。そういうふうをお願いを申し上げます。

長くなりまして、申しわけございません。

谷田 私、篠山市の当野の谷田といたします。

今、武庫川の上流で、河川をいらっているということで、お話を聞かせてもらいました。あれにつきましては、平成9年に河川法の改正がございまして、環境面も重視するという事で、いろんな立場から、大学の先生、また人と自然の方の専門の先生にもお願いして、22名だったと思いますが、検討委員会を設けまして、十数回の委員会、半年ほどかけて十分検討して、あの工事を始めております。

平成8年の集中豪雨の話も今出ましたが、私の集落では、3戸家が壊れて、建てかえもしました。家の中へ相当土砂が入った家も半数ぐらいございました。ことしになって、やっとあのしゅんせつ工事が始まったんです。8年余りの間ほったらかしておったんです。河川いらうな、いらうなと言われて、みんな本当に迷惑しております。

オグラコウホネの話も出ましたが、あれは行政の方でちゃんと検討していただいて、工事を始める前に三田市等に移植をしました。移植の試験もされて、十分検討して行っております。勝手に川を改修するということが不可能な世の中になっておりますので、行政も十分考えてやってきております。オグラコウホネにつきましても、上流の方へずんずんふえております。圃場整備をした自然の排水路にさえもオグラコウホネが出ております。下水道の話が出ましたが、下水がほとんど完成して水質もよくなりまして、田んぼへ行きましても、ヒルもシジミも排水路にまでおります。イナゴもうんとふえています。

こういったことで、自然環境というものは、河川のみでなしに、農薬も相当影響があると思うんです。一昨年でしたか、農薬の使用法も改正され、違反した者は100万円以下の罰金とか、こういったこともございまして、地元の住民みんなが環境面についても十分頭に置き、日常生活しております。

そういうことで、私の方の河川が、水害に遭いながら、環境面でいろいろ問題がございまして、8年も手がつかずにほうっておかれた。こういった実態なんです。だから、環境、環境と言われても、その流域に住む人間のことも十分考えてください。被害に遭ったら、反対している皆さんは補償してくれますか。だれもしてくれへんでしょう。災害を受けたら工事はしてくれますが、いろんな作物は、共済に入っていなかったら、何も補償がないわけです。地域住民があつてこそ、日本の国というものは成り立っている。こういう面でお考え願いたいと思います。

以上でございます。

永井 憶測ということで、当野の方々に済みません。何度かお伺いして、川をずっと見させていただいていますが、地域の方がおっしゃるのが本当の声だと私は思います。私の

関心は、コウホネのことなんです。私、医療関係におりまして、コウホネの薬効が現在問題になっています。いわゆる免疫力の増加です。コウホネを栽培すれば、それをまた利用するという経緯が出てくると思います。地域の方が自然を一番よくご存じだと思いますが、それと同時に、そういうことを、子供のころからと言えればあれなんです、河川をいじる方は、住民の方にも知識を与えるというか、一緒に考えていくというのが最も大事ではないかと思っております。

私、当野の方に対してどうのこうのということではありません。実際の橋の架橋なんかのところはもちろんコンクリートで、その印象で私ちょっと言ったことは、申しわけございません。本当に苦労なさって、あの辺を管理なさっているということがよくわかります。

できたら、地域の人を含めて、ビオトープ的な考え方、将来自然を子供に渡していく、それは温暖化の防止にもつながっていく、こういうような視野に立って事を進めていただきたいというのが私の希望なんです。

司会 ありがとうございます。いろいろとご意見をいただいて、私が何かコメントをするという役ではありませんが、1つだけ、リバーミーティングということをお考えすると、立場が違くと多分みんな意見が違おうと思うんですね。違う立場で見ると、自分とは違うこんな見方があったんだということを知ったり気づいたりわかったりするというのが、篠山と三田の間だけではなくて、きょうは恐らく尼崎とか流域の南の方の方もおいでいただいているんじゃないかと思えますけれども、この流域全体 500 平方キロの中でのそういう相互理解が非常に大きなポイントになるのではないかと個人的には思いながら、今のお話を伺っておりました。後ほどまた流域の南の方からでもご意見があれば、ぜひいただきたいと思えます。

時間的にもう少しありますので、上流の包括したところで、ご意見があれば……。

吉田 尼崎から来ました吉田です。後半の方で少しお話しさせていただきたいと思うんですが、きょう上流の方のお話を伺って、自然保護なり一生懸命やっていたら、非常に心強く思いました。

どなたかがおっしゃっていましたが、私がきょうここへ来て一番知りたかったのは、上流の方にも暮らしがある。その暮らしを守るために、例えば地域開発されるとか、山の上でっかい住宅街が建ったり、下流から見ていると、治水とか保水からいうと、どうも怪しげやなという感覚にはなるんですが、地域の方の気持ちからすれば、自分たち

の生活を自分たちで守るといふような思いがあるかと思います。その辺のところは、上流と下流、自然保護とバランスがとれたらいいなと思います。

ただ、言うのは簡単なんですけど、実際には金がかかる、時間がかかる、労力がかかる。それをだれが出すんだというのが問題じゃないかと思います。ひとえに行政の方で予算をつけるといっても、行政の方も、武庫川だけをやっているわけではなしに、地震も来れば、津波も来る。

ちなみに、尼崎の私が住んでおりますところは、ハザードマップで、武庫川が決壊したら、2メートル水没するという地域なんです。武庫川の上流からここまで終わらぬと、いつか私も2メートル下、背が立たぬようになってしまう。そういう状況がありますので、きょう上流の方のお話を聞いて、非常に心強く思ったという感想だけ述べさせていただきます。

足島 大阪から来ました足島と申しますけれども、第2回のリバーミーティングで、ちょっとお話しさせていただいたんですが、大人と子供たちへどう川の環境をつないでいくかというのが問題だということを認識をさせていただいていまして、先ほどお話しいただいた笹倉さん - - 篠山中学校の先生、それから田井さん - - 高校の先生、そのあたりのつながり、それから大人と高校生のつながりというふうなことを、淀川水系流域委員会では、河川レンジャーというふうな行政と住民の間にあるような組織をつくったらどうかという提案をされているわけです。現実に河川管理者はそれをしたいということで、今制度化されて、何名かの方がそういう形で動かれています。そういうのも武庫川流域委員会の方で議論をいただけたらなということと、今篠山市で、そういうふうな行政が主体となって取り組みされているケースがあるんですか、そのあたりをちょっと教えていただけませんか。

笹倉 私、勤めは篠山ですが、住まいは丹波市なので、行政の方の活動というとはよくわからないんですが、昔、行政の方で、自然観察会のバスツアーみたいなものを子供を対象にやっておられたと思います。以降のことはわかりません。

私たちの活動は、NPOなんですけど、田んぼの中へ入って生き物をさわって遊んだり、あるいは秋にハイキングに行って、秋の野の花を楽しんだり、星を見たり、川へ入って、川魚をとって焼いたり、そういうのをばらばらにやっているのが現状です。行政の方も、多分そういう話は興味があると思うんですが、今のところは機動力を生かして、動きやすいように、余り重いおもりをつけないで活動しているのが現状です。さっきは高校、中学校と言われましたが、小学校の先生方も、生き物に物すごく詳しくて、それぞれが子供た

ちに自然の豊かさを教えている現状があります。

松下 第9回の委員会で、長峯先生が流域内に1,200個のため池があるという話をなされたという議事録がありますけれども、私、実は三田市の藍本の、先ほどちょっと出ました日出坂というところにあります。当野の方なんかと一緒に、河川改修、基盤整備事業をやった地域ですけれども、老朽ため池の問題を上流域では解決していかなくては行けないだろうと思います。

私どもも、10年ばかり前に、ある1つの池の改修をやりました。3,000万かかりました。地元負担が3割ですから、900万のお金を用意しなくては行けません。幸い先ほど出たように、30年ほど前の河川の買収費用が残っていましたので、その中から出しました。

しかし、今、減反政策、また米が非常に下がっているような状態で、しかも生産者が高齢化している。稲作づくりに夢を持てるような社会ではない。その中で、ため池の改修工事をするということは非常に難しい。ですから、総合治水の中で、ため池をどう利用していくかということこれから真剣に考えていかなくては行けないというふうに思います。ため池の治水分を地元から買うというふうな形で、治水をため池とリンクしてやってもらいたい。そうすれば、地域の負担も少なくなるし、一定の利益もあるだろう。そうすれば、川に対しての考え方も変わってくると思います。

もう1点、皆さん三田を通過して帰られるのであれば、もしお車でしたら、176号線の三田市に入って四、五キロ行ったところで、今河川工事をしています。これは、自然護岸というか、石を積んでやっていますけれども、私地元におりまして、特に工事の中でしてもらったことは、排水溝と川をリンクすると。今いろんなところでやっている河川工事は、河川は河川としてやっています、農業用水の排水と河川とは落差工があります。そこで生き物たちは上って行けない。断絶があるわけです。どうやって落差工をなくしていくか。今、土地改良事業をやりますと、用水と排水は完全に分離していますから、用水に生き物を乗せるというのは非常に難しいけれども、排水路と川をどうやってつないでいくか、面として生き物の生きる空間を広げるかということが1つは大事なんじゃないかというふうに思います。

そういう工事をしていますので、もし時間があれば、見て帰ってください。

司会 今推薦のあった工事の箇所というのは皆さんおわかりになりそうですか。

八木下 神戸市の八木下と言います。

今松下さんから話がありました工事を県の方で担当しております。場所は、176号線を

篠山市の境から三田市に入ってちょっと行ったところです。きょうは、私何も資料を持ってきていないので説明しづらいんですが、最後にでもわかるようにします。今、結構日が長くなりましたので、4時で一応終わりということで、車で寄っていただきましたら、十分見れると思います。私説明させてもらいます。また最後のころにでも案内させてもらいます。

司会 市民としてご参加の八木下さんにご協力いただきまして、大変うれしく思います。まだもう少し時間がございますので、上流に関して……。

安留 21世紀の武庫川を考える会の安留と申します。篠山に住んでおります。

第3回の武庫川流域委員会で、現地調査をされて、委員の方々は多分源流の方を見られたと思います。先ほど真南条川の方が上流だという話がありましたが、もう1本、篠山駅の裏側の方に、田松川となっていますけれども、それも源流の1つとなっています。その水質が、町の裏側を流れているということで、今非常に汚れている。きょう篠山市の方が来られているかどうかわかりませんが、水質の方も管理をされているとは思いますが、そういった状況の中で、たしか第1回のリバーミーティングのときに、総合的に治水を考える場合には、もしダムということだとまるようなことになれば、やはりそれを利用する人たちにも影響してくるという話がありました。

現実に下流域の人たちが飲料水としている上流は、これが本当に飲めるのかというふうなひどい状態なんです。そういった点も、総合的な治水を考えるときにはぜひ織り込んでいてもらいたい。もし篠山市の方がおられたら、水質のことについての意見があれば、お伺いしたいと思います。

それから、上流、下流の問題がありました。例えば、この間の水害で、上流の方で、田んぼに水が入って、一部川が氾濫したところもあります。そういった被害をなくするためにということで、河川改修工事が行われたけれども、どうしても三面張りの工事になってしまうということでの問題点が最近指摘されて、検討委員会なんかが設けられて、より自然工法に近いような工事がされるようになっている。それはいいんですが、昔は三田の水害もありましたけれども、そういう上流の被害によって下流域が救われているという面もあると思うんです。上の方にいわゆる遊水地を設けることで洪水を防止しようという考え方がありますが、実際に遊水地的な役割を果たしている。先ほどため池の話もありましたが、ため池もそうです。そういうことは別に予想しているんじゃないけれども、そういう状況になって、おかげで下流の方は助かっているという面はあると思うんです。

ならば、先ほど補償の話がありましたけれども、下流域のために被害を受けているという面もあるので、そういった観点から、行政としての県なり市なりが補償するときの要素にはなるのではないかと。例えば、先ほど言ったため池のこと、それから上流の遊水地的な役割を果たすという問題について、そういう観点から助成をしていくという点が、県全体で考えればあり得るのではないかと。というふうに思います。

それと、後半にもかかわると思うんですが、最近私考えているのは、いわゆる雨水利用です。上流域に降った雨が武庫川溪谷の狭窄部を通過して阪神間に流れていく。ですから、今狭窄部にダムをつくってはどうかという話が出ていていると思いますが、一時に出る雨をそこでとめるためにはダムがいいという話もありますけれども、ダムをつくったら、それだけ影響力が大きい。ましてやそれが決壊するようなことになったら、阪神間は大変な目に遭う。今 100 年に 1 度という確率を出してはいますが、200 年に 1 度、300 年に 1 度の雨だったらどうなるんだという話になってくると。例えば、つくったダムでも、今撤去する動きさえあります。熊本でもありましたけれども、アメリカなんかではそういう動きになっていると聞いています。それなら、もっと将来にわたって持続的な安全な方法は何かと。

植樹なんかもあるでしょうが、個人個人ができるような方法として、遠くの水でダムで大きくためるということではなくて、個々の家がそういうことをもしやったら、上流域の三田であれば、3万 8,000 世帯あるわけです。そのうちの何割かぐらいは雨水利用のためにやると。これは東京の墨田区が有名ですし、四国の松山市なんかは、実際に雨水タンクに対して補助を出している。そういう市は、1 つは水利用、水が足りないということがありますが、浄化槽から切りかえたら、それに対しても補助を出すというふうな制度ができています。東京なんかは、いざ湯水のとくに、水をなるべく使わないようにということで、回って呼びかけるようなんですけれども、もし個々の家で水をためるようになれば、もちろん水道代のこともあるでしょうけれども、一時の雨をためるという意味では、洪水に対する機能も働くのではないかと。そういったことを考えて、行政なんかは、雨水を利用したり、それを下水にすぐ流すのではなくて、庭に浸透ますを設けて地下浸透させるというふうな方法をとっています。

そういったことをしたところ、そういう施設に対する、さっき出たような自治体の補助を考える。これは武庫川流域全体で考えたら、武庫川に流れ出る水を抑えるという効果があると思います。市だけで難しければ、県も一緒になって、助成なり補助をしていくとい

うふうなことで、個々の家で、そういう雨水を十分利用できるような方法が講じられたらなと思うわけです。

以上、私の意見です。

酒井 いただきました資料で、上流域の線路と武庫川との堤防の間が遊水地の役割を果たしているというふうなところを見させてもらっていたんですが、今ご発言がありましたのは、上流域が下流域の災害を防ぐために、農地が遊水地の役割を果たしてきたということは、今後の武庫川の上流域における遊水地としての、あるいは武庫川全体としての下流への被害を最小限度に食いとめるための方法ではなかろうかというふうに私は受けとめているのですけれども、あの面積が50町歩ぐらいございます。50町の面積が3日稲の穂が出る時期に冠水いたしますと、3日ぐらいかかって水が引いておりましたが、その稲は黄化萎縮という病気において収穫皆無でございます。

これは原論から申し上げなければわからないと思いますけれども、日本の農業が、輸入穀物、あるいは輸入の食料によってどんどん衰退しているということは、農業に対する政治そのものの力の入れようが、普通の輸出関連工業と比べて格段に低いということもありますけれども、国民の意識として、都会の密集地域に住んでいる住民のためなら、過疎地域の住民が多少の被害をこうむっても、国家のためにひとつ辛抱していただきたいと、そういうお気持ちがあるとするならば、武庫川の上流、下流という物の考え方の原点に戻って、上流に住んでいる地域住民は、本当に情けない思いをいたしております。

遊水地の問題につきましても、今後どういう方法において下流への被害を少なくするかということについて、1つの方法として、上流の農地の被害補償を考えればいいというふうにも書いてありますけれども、被害補償で済む問題ではないのではないかとこのふうにも考えられます。その点も十分にお考えをいただきたい。

以上でございます。

司会 今のご発言の資料というのは、吉田さんの意見書のことを指しておられるんですね。吉田さんには後半でご発言いただく予定になっておりまして、ちょっと混乱された方もおられるかもしれませんが。

上流対下流というような形では恐らくないと、私は個人的には思っております。もちろん、委員個人の意見ですけれども。

安留 先ほどちょっと言われたのは、多分私の発言を受けてのことだと思いますが、資料は私のものではないんですけれども、私も基本的にそういうふうな考え方を持っています。

す。その場合、補償の問題とかありましたけれども、今稲作というのがなかなか難しくなっている状況の中で、窓から見られたらわかると思いますが、稲をつくっていない、荒れたままになっている田んぼもある。そういう土地をもし県なりが買い上げるような形になれば、そういう道もあるだろう。一時的な被害で、何年かに1回のものであれば、その年の農業補償をしてもらったらいいということもあり得るだろう。しかし、それは地域住民の方々の意見を十分吸い上げた中で求める道だというふうには思います。

伊藤委員 住んでいるのは、宝塚市ですけれども、私の連れ合いの母親の里が真南条中にあります。私、真南条川というのは、40年前から、小さい子供を連れたりして遊んでいました。龍蔵寺の山へ行ったり、あの辺のところをよく遊んでいて、実はきょう、リバーミーティングがあるからということで、委員の人に声をかけて、真南条川の上流へご案内しました。3つ目の堰堤のところまで入ってご案内をしたんですけれども、40年前の山と今の山とは全く違っています。40年前、うちの母親の母親がマツタケをすき焼きにして山の中で食べさせてくれたりした山が、今は全くなくなっています。それは皆さん周知のことなんですけれども、それ以上に私が懸念していますのは、山が大荒れに荒れているということで、特に真南条川は平成8年8月に山抜けをしています。龍蔵寺も、観音堂を残して流れてしまったわけなんですけれども、山抜けしてしまったところのものは、やっぱり山が放置されてしまったのかなと思っています。篠山地域も、中山間地域の1つとして、高齢化が進んで、担い手がなくなっている。また、経済林として成り立たなくなってしまうということもあろうかと思っていますけれども、山を何とかして手入れしなければいけないというふうに思っています。

私自身は、武田尾の里山 - - 40ヘクタールの山ですけれども、そこで300人ぐらいのメンバーで、里山の手入れをしています。そのことは、500平方キロの武庫川流域で微々たるものですが、何とかしたいなと思っています。篠山の源流の真南条の谷の地域があんなに荒れてしまったということを非常に悲しんでおります。上流の皆様だけが担って解決するのは不可能なことが多いんじゃないかと思っています。行政にお願いしなければいけないかもしれませんが、山の手入れというのは、これは釈迦に説法ですが、1年や1回やって終わるものではなくて、毎年続けないと山というのは整備されないと思いますので、そういう手入れに対するお金をもっと出しほしいし、そんなお金をずっと続けてやってほしいと思っています。

篠山の方で、実際山に携わっている方がいらっしゃいましたら、ぜひお話を伺いたいと

思っておりますので、よろしく願いいたします。

司会 そろそろ山の方に話が振れたらなと思ったところに、伊藤委員からお話がありました。今の山あるいは森林といったあたりで……。

笹倉 モリアオガエルの研究をやって五、六年ですけれども、いろいろまとまったので、報告します。

モリアオガエルというのは、一生をほとんど木の上で暮らします。つまり、森が荒れていたら、生きていられないんです。そのモリアオガエルを8年間、去年まで観察し続けておられる福知山の和尚さんがいて、毎年シーズンになると、庭の池で卵の数を数えました。

(O H P)

前に出してあるのがその結果です。きのう徹夜で、朝10時まででいきなり仕上げたという強烈なものなのですが、5月、6月、7月とあって、1997年から2004年まで、毎年調査を行った結果です。

卵と書いてあるのがモリアオガエルの卵、泡々のやつが何個かあるかというのを調べております。気温は、柏原町の月平均気温です。雨の量というのは、月のトータルの降水量です。

これを見てもらったらわかりますね。卵が減っています。5月も減っているし、6月は、若干あれですけれども、減っていますし、7月は暑いので、卵を産みません。

こうやって考えると、年々モリアオガエルにとっては、森はすみにくくなっているのかな、虫もいないのかな、日陰もないのかなというふうに思います。もし機会があれば、詳しい資料がありますので、卵の数を数えただけのことがどれだけ立派なことになるのか、お教えします。

以上です。

岡田委員 本日は、皆さんたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。伊藤委員が個人的な述懐をされましたので、私も、そういうことで申し上げますと、私は、昭和20年に神戸で大空襲に遭いまして、その後、母方の里を頼りまして、この上流の谷川の久下村というところに戦争中に疎開しておりました。したがって、このあたりには親近感がございます。

今現地の方からいろいろとお話ございましたが、私も、このあたりでは自分なりに活動しているつもりでございまして、去年は、当野の岩鼻橋のあたりで、オグラコウホネの観察をほとんど毎月1回以上来て、水質を検査したり、水温をはかったり、いろいろとや

ってきました。そうして、ある財団からのレポートを提出しました。

ほかには、草野の草野大橋のところで、下流の西宮、宝塚あたりから小学生を夏休みに連れてきまして、川遊びをしたりして、そういうことには努力しております。そのときには、産業高校の田井先生にもわざわざおいでいただきまして、投網を打ったり、ご協力をいただいております。これについては、法西委員や草野の酒井委員にも協力してもらいました。そのほかに、ただいま森林のことが出ましたが、波賀野の公民館で地元の方々と意見を交わしましたし、その上流の東谷池が、当時丹南ダムということでダムになりかけたときに、その上流まで行って、地元の方とお話ししたり、また県当局の方を酒井委員と一緒にご案内しているいろいろ話をしたこともございます。

そのほかに、本日当野の谷田さんがお話しされましたが、多分谷田健蔵さんという方であると思いますけれども、その方には3年ほど前にお伺いしまして、当野の左岸に流れ込む中谷川から非常にたくさんの土砂が平成8年に流れ込んだということで、いろいろお教えいただきました。それから後、当時はまだ武庫川流域委員会はなくて、準備会議もなかった状態だったんですけれども、県当局にもそのことを申し上げまして、当野の岩鼻橋下流の土砂を何とかしてもらわぬと、ヘドロがたまって、流れが閉塞されているということを申し上げました。

この間、11月ごろ行きましたら、初めて工事をしておりまして、ことしの3月ごろまでしゅんせつの工事をするというような掲示が載っておりました。私は、谷田さんには非常に長いこと、あいつは何もしてなんだと思われていたかもしれませんが、できるだけのこととはやったつもりでございます。

私は、現在伊丹ですけれども、伊丹にいる住人でも、上流のことには結構関心を持っておりまして、いろいろやらせていただいていると思っております。今後も、いろいろの方とおつき合いしまして、上流、下流とかいうことで余りわだかまりを残さずに、治水の問題も利水の問題もご協力をお願いしたいと思います。

以上でございます。

加藤委員 先ほどから森林の話が出ておりますので、私も、職業柄何か言わないかぬなというよりも、森林に対して皆さん抽象的な期待が大き過ぎるものですから、私自身ちょっと戸惑っているような感じです。そうしたら、上流で、だれがどうして森林を整備していくのか。昔はほうっておいても、山の整備はできていたわけです。ちゃんとお金になりますからね。今や全くと言っていいくらい木材の価値というものがないわけです。

幸い、私きょうここに持ってきておりますけれども、2005年1月13日付の神戸新聞に、2006年度から兵庫県が緑税を導入するというので、これから県議会等でいろいろ議論されると思いますけれども、この中に森林保全に対する税を1戸当たり800円お願いするようことが書かれております。当面5年間で、森林の整備や都市の緑化に対して、年間で21億ぐらいのお金を集めてされることになるようございまして、我々は非常に期待しております。

といいますのは、現在個人で森林の手入れをされております方は、県内でも恐らく1割程度だと思うんです。ほとんどが私も所属しております森林組合とか、あるいは企業が一部されている程度でございまして、今個人では全くできない状態になっております。それはなぜかといいますと、制度的にもそうですし、放置していた森林などもありますから、だんだん木が大きくなって、素人では手入れができない。そんな状態でございます。

このたびの台風以降も、そういう危険木の取り除きをしておりまして、兵庫県でも、はや3名の方が亡くなっております。それほど取り扱いが難しいので、いわゆる森林のプロがやっております。ですから、先ほどからお聞きしまして、森林が荒れているとか、何もしていないから、環境面でも、我々の責任みたいに言われておりますけれども、私としては、憤慨したいような気持ちでいっぱいです。先ほどの税の導入につきましても、下流の方は、どちらかといいますと批判的だということをお聞きしております。川というのは、治水、利水、あるいは環境面でも、上流と下流のお互いの理解、下流は上流を理解し、上流は下流を理解する、そういう交流も必要かと思っております。

武庫川流域委員会で、私、農地・森林部会というのに所属して検討をしているんですけども、その中でも、やはり理解を深めるための交流というのは大切だなと思って、そんなことも検討していきたいと思っております。

抽象的な話でなしに、例えば、武庫川の場合ですと、人工林はわずか3,000ヘクタールほどなんです。これを間伐するのに、たった3億なんです。総合治水の面から言えば、本当にわずかなものだと思いますが、現在、国土交通省がそんなことに金を出しますか。その辺も一つ問題だと思います。

以上です。

山仲委員 上流部のことで、いろいろお話が出ておりますが、昔、NHK歌謡で、「川はだれのもの？」というような歌がありました。10年ほど前ですので、細かいことは忘れてしまいましたけれども、山に雨が降って、斜面をおりて、溪流へ行って、そして大きな川

へ行って、海へ出るというようなことで、それを子供の声だったか、女性の声だったかで歌っておりましたが、治水を考える上で、川だけ考えていたらだめなわけです。そのことは皆さんご存じだと思いますが、武庫川を考える上でも、500平方キロの流域面積のうち6割ぐらいが山地です。その次に多いのが農地、人間が住んでいる町というのは、面積的にいうと非常に小さいわけです。

だから、川をおさめようといいますが、やはり山もおさめないといかぬ。先ほどから出ておりました農地のため池をうまく治水に利用するとか、田んぼを遊水地に借用といいますが、これは自然現象としてなる面が多いんですが、そういう場合にどうするかというような問題も考えるということで、いわゆる総合的な治水ということで、これからやっていけないといけないと考えております。

その点、考えてはいるんですが、いろいろな文献を読んでみましても、山に降った雨がどういう働きをして、どういうところを通過して、川に行くか、難しい言葉で言いましたら、山地水文学とか森林水文学とでも言うんですかね、その辺のことが、学問的な定説がない、研究はこれからだというようなことが書かれております。ここに大学の先生もおられますので、その辺のこともこれから勉強していきたいと思っております。とにかく私は、川だけ考えていたらだめなんだ、山も考えましょうということをお力説したいと思っております。

それと、先ほど来皆様方のお話を聞いておまして、これは問題だなと思いましたが、大きく言えば、環境です。水質が悪くなったと。川の水が臭くなったという表現をされておりましたが、結局水質が悪くなるということは、そこに住んでいる動物、そこに生えているオグラコウホネとかの植物の生育にも影響が大きいと思っております。だから、この上流で水質が悪いというのはどの辺に問題があるのかというような点も、これから勉強をしていく必要があるのではないかと考えております。

谷田 少し時間をいただきます。先ほど三田市の方がため池の改修の話にちょっと触れておりましたが、ため池についてお話ししたい。

全国で、28万ぐらいのため池があると聞いておりますが、兵庫県には5万、実際調べたら、4万程度だと思っておりますけれども、どこともため池が多いわけです。そのため池が老朽化しております。河川の遊水地の話がありました。実際洪水に対応できるような遊水地をつくるんだということ、今の農地の5分の1ぐらいはもうなくなってしまうんです。それで農家がみんな農地を手放して何をするかということです。ため池につきましても、年々老朽化していくわけです。地形によって問題はありますが、ところによれば、遊水

地ということを十分考慮できると思います。

今の国の予算は、農林水産省、建設省は縦割りになっておりますが、現在あるため池を洪水調節にできるような構造に持っていくことは、非常にメリットがあると思います。こういったことも考えれば、治水ということに非常に意義があると思うわけでございます。

先ほど田んぼに水がという話がございましたが、今圃場整備は九十八、九%までできております。以前であれば、田んぼの畦畔も 15 センチぐらいの高さでございましたが、今 30 センチある。大雨が降りますと、今の田んぼは、普通 100 メーターに 30 メーターで、排水溝は大体 20 センチの直径の排水管が入っております。だから、農家がまじめに農業を営んでいくことによって、相当洪水調節の効果があると思います。農家が皆、百姓が嫌になったとやめて、田んぼのあぜをみんな削ってしまったら、今の河川ではとても洪水のときの排水はできないと私は思います。

そういった意味で、農地であっても、一時貯水をして、河川へ放流するのを抑えているということをご認識願いたいと思います。

司会 ありがとうございます。ここで 10 分間休憩をとらせていただきます。

(休 憩)

司会 それでは、時間が参りましたので、再開させていただきます。

後半を始めるにあたりまして、前段が、地元のいろいろな情報が出まして、活発に進んでまいりましたので、当初 16 時というふうに予定しておりましたけれども、30 分ほど延長させていただいて、16 時半には必ず終わるといようなことで、後半進めさせていただきたいと思います。それと、前半の最後の方に、少し委員の方からも発言をさせていただいたんですけれども、念のための確認ですが、あくまでも委員個人の発言でございまして、委員会としての意見ということではございませんので、その点ご理解いただきたいと思います。

それでは、休憩を挟みまして、後半のテーマの方に移らせていただきたいと思います。上流、下流の交流、それに付随するその他の話題ということで、まず意見書をちょうだいしている方からご発言いただきたいと思います。

最初に、吉田様、お願いします。

吉田 まず最初にお断りしておかなければいけないのは、前回から私こういう場面に出させていただいて、きょうで 2 回目で、我々が住んでいますのは下流なので、上流部の方のお話を伺った中で、また考えたらなというふうに思ったんですが、県会の報告を見ると、

武庫川のダムを急げとか、そういうふうな議会での発言もあったり、23号台風の後、川を見に行ったら、どんどん工事が進んでいると。これは応急対策でやらざるを得ぬのだと思いますが、どうなっているのかよくわからないけれども、どんどん事が進んでいく。そういうことで、とりあえずずれてもええやんということで、相当乱暴な話ではあろうかと思いますが、思いを少しご披露させていただきます。

前段に書きましたように、尼崎そのものが武庫川と猪名川の運んできた土砂で埋まってきた沖積層のところにできたところで、あるお宮さんに行ったら、石碑が立っていて、その川のことを暴れ川、人喰い川と書いてある。そういう地域に人が住んだのが悪いのと違うかというふうには思うんですが、時代が変わると全然思いが変わりまして、神さんは川のお守りをさせられているというような状況だと思います。

もうちょっと川を上っていくと、仁川という川の下に川がくぐっています。なぜこんなところに川がくぐっているのかというと、その地域の方の農業用水を得ようということで、あの川をつくるために血のにじむような工事をされたんだらうと。そういうことで、先ほど三田の方も言われましたが、昔から水、川というのは生活そのものだと。そういう意味で、生活に壊滅的な影響を与える安全上の問題と、もう1つ、生産という立場からすると、また難しい問題があると。この調和をどうとっていくのかということで、人間長いことやってきたんだらうと、そんなことを考えながら、きょうの会議に臨ませていただきました。

武庫川の特徴というと、ホームページとかパンフレットを見せていただいても、現場を見ても、上流部は比較的穏やかな流れで、山も、確かに山が削れて河床が上がってくるというふうな状況ですが、六甲山なんかには比べれば、安定している地域だと。

中流域はどうなっているかということ、私が言う中流域というのは、宝塚から道場、三田のあたりですが、資料を1枚めくっていただくと、地滑り資料館の資料がありますが、兩岸岩で切り立ったところで溪谷をなしていて、幸いなことに開発が進んでいない。多分これからも開発しにくい場所じゃないかと。

下流部になりますと、この写真のとおり、民家が密集して何ともならない。人の生活が密集した場所だと。宝塚のあたりというのは、前回の発言の中にも、川の中まで家が建っているのと違うか、ちょっとおかしいのと違うかと。行政の怠慢だというふうな話まで出ておりました。そういった意味で、下流部は下流部で十分悩んでおります。ひたすら上流部の方だけにご負担いただく、責任を負わずという発言は、私は今までなかったように思

います。そういうことで、きょう上流部のお話を聞いて非常によかったと思います。

そういう武庫川の形、地質、それと今我々が暮らしていることを考慮しながら、上流、中流、下流を分けて対策を考えたらどうかと思います。

遊水地の話は、私無理かなと思いながら書かせていただいたんですが、非常に効果があったという経験があります。それは東京の世田谷区で、多摩川という川のすぐわきにある非常に大きな公園なんです。それが遊水地なんです。多摩川が増水になったときに、その遊水地に水がたまって、何日か抜けなかったということで、多摩川の下流が守られたと。ふだんは、立派な公園なり美術館なりがあって、市民の憩いの場になっていると。

今回の水がつかった範囲は、幸いというか、不幸というか、農業をやっている方には非常に酷な悪い言い方だと思いますが、人に被害がなかった。そういう地域でなかったというのがよかったのかなという感想です。そういうことから、もし許されるなら、人に被害を与えないようなところに少し貯留できるようなものを考えたらどうか。先ほどため池というようなご提案もありました。別に遊水地にこだわっているわけではなしに、上流部については、保水力を高めるというのが一つの対策だと思います。植林をしるとか下流は勝手なことを言っている、そんなもんだれが手入れするねんというふうな話になろうかと思いますが、下流部の方も、そういうものに対して認識を深めて、応分の負担をしないといかぬだろうということで書かせてもらっています。

中流部のここは、ちょうどダムを計画されていた場所だと思います。ダムをつくったら、ある程度の洪水は防げるのかもわかりません。ところが、そのために、ここは水没してしまって、何もなくなってしまう。新しい景観が生まれると言え、そうかも知れませんが、今までの自然が破壊されてしまう。自然というのは、何が自然か、現状維持が自然かどうかというのもよくわからずに話をしているんですが、少なくともこの川は、何十年か何百年か、人が入り込まなかったところで、それほど姿を変えたところではないだろう。こういうところに一つのダムのようなものができても、影響はないのかもわかりませんが、今回の事故でわかったのは、リバーサイドというのが、前回のときにその住民の方からも出ていましたが、絶対水が来えへんところや、大丈夫やと言われて買ったなら、実際には水が来て、つかってしまったと。ここで水をせきとめたから、下流は被害がなかったのと違うかなというのが私の考え方です。間違っているかも知れませんが、間違っている方が確率が高いかも知れませんが、ここで一生懸命水を流したとしたら、下流部を見ると、橋の下が洗掘されているとかで、ひどかったら、どこかの鉄橋が落ちているとか、堤防が

決壊するとか、そういうことにもつながるのかなと思います。

そういった意味で、極端な言い方で申しわけないんですが、あそこのちょうど狭隘になっているリバーサイドの近辺が、自然の穴あきダムの機能をしてくれたんじゃないか。その機能をそのまま使って、リバーサイドの方も、移転を含めて何か考えてくれというふうなご意見もあったように思っていますので、そういうことも含めて、リバーサイドにお住まいの方のご希望、またそれが防災に役に立つのであれば、ここを一つの穴あきダムのような考え方で整備をしてもいいのではないかと思います。

下流部になりますと、地滑り資料館の写真で、赤いところは地滑りの危険地帯ですが、事実この印をされていた1点の見返岩というところの対岸が崩れたということで、補修工事をやられていたと思います。今回はこの程度で終わったと思いますが、これがどんといくと、この間の新潟地震で、土砂崩れで村が水没したといったことにもなります。

また、下流部の川というのは、いろいろなパンフレットにありますとおり、天井川です。なぜ天井川になるかという、六甲山系というのは、花崗岩質でできていて、それが風化してもろくなって、どんどん武庫川に流れ込む。そうすると、どんどん天井川になる。そういうことで、ここはしゅんせつを繰り返さざるを得ぬ場所だと。堤防をうずたかくして、より堅固にするのではなしに、先ほど山林の話で、手入れをしないといかぬという話があったと思いますが、むしろ手入れをしていく。物すごい強固なものをつくって、これで終わりじゃなしに、どんどん改善しながら、手入れを繰り返していくということが大事ではないかと思います。

もう1つは、治水と利水というのは一対の話だというふうに私はとらえていますが、利水という意味では、最近水余りが伝えられていて、ダムはもう要らぬやろうということで、見直されるような状況です。これがここに該当するのかどうか私もわかっていないんですが、少なくとも水については、それなりに足りているのだろうと。もう1つは、ダムというのは、一時貯留する災害防止のためのダムというような考え方がありますが、今回の23号台風で、計画されたダムがあったら大丈夫だったのかということ、どうも怪しげだという結論になるのではないかと思います。

そういうことから、ダムをつくって、安全を守るのと、今の現状、リバーサイドの方には悪い言い方で申しわけないですが、穴あきダムというふうなとらまえ方で、あそこを一定の水を制御し得る場所だというふうにとらえますと、自然もそれなりに保護できるんじゃないか。幸いなことに、この近辺では岩盤も比較的丈夫で、山崩れするようなところで

はなかろうと思います。そういうふうな扱い方をすることで、下流も上流もうまいこといくんじゃないか。下流は、せつせと土砂を排せつしないといかぬ。また、災害が起こらなくても、土手が傷んだり河床が傷んだりするわけで、手入れをしていかないといかぬ。先ほど土手の草刈りの話もありましたが、当然やらないといけない整備だと思います。それはだれがやるんやというところが一番問題でして、前回参加させていただいて心強いなと思ったのは、ボランティアでやってもいいじゃないかというふうな声も下流で出ていました。

そういうことで、こういう会を通して、上流、下流、それから中流も含めて、何が我々にできて、何が行政にお願いしないといかぬのかということをもう少し考えてもいいんじゃないかと思いました。

それと、先ほど水質という話も出ていましたが、これは非常に大事なことだと思います。洪水から保護するのと同じくらい大事だと思います。というのは、魚でも我々でも水がなかったら生きていかれへん。これはもうはっきりした話です。どこかから持ってくればいいじゃないかというわけにはまいらぬと思います。そういう意味で、我々にできる水質保全のための取り組みも、ひょっとしたらあるのと違うかと。

山を歩いていて、一番上流の人の来ないところにごみをいっぱいほうってある。そのほうったごみが安全なものというのはまずないわけです。化学物質が漏れてくるとか、医療廃棄物であったら、病原菌が流されるということも懸念されます。この間も、宝塚の水道局でしたか、玉瀬浄水場で、何とかいう菌か何かが出てきたと。非常に恐ろしいことだと思います。そういうことを防ぐという意味では、不法投棄に対する我々の監視もふやさないといかぬと思いますが、もう1つは、法的にそういうのをもっと厳しく処罰するなり、多くの方がお集まりいただくといろんな案が出てくると思いますので、そういうことを含めて、汚染防止が非常に大きなことになると思います。ちなみに、私が子供のころ、武庫川の下流の水も飲めたんです。

それから、自然保護という話で、いろんなご意見がありますが、あの川をそのまま置いておくのが自然だというふうにとらまえれば、天井川になって、まっ平らになってしまって、どんどん上へ上がって、夏には水がなくて、10日ほど雨が降ったら洪水になるというふうな川になってくると思います。そういう意味で、河床のしゅんせつというのは非常に大事なことだと思いますが、今宝塚のあたりを見ると、まっ平らに削ってあるんですね。まっ平らに削っていたら、水のあるときはよろしいけれども、夏に水が少なくなったら、

全部下がってしまうから、魚はすまれへん。だから、まっ平らにするんじゃないし、少し川の流れをつけるような形で、くぼんだところを置いておくとか、水たまりができるようなところをつくるとか、そういうふうな整備のやり方とか、いろんなことを考えられるんじゃないか。

そういうことで、我々も水に親しめる、生物も何とか生きていける、そういうことができたらなという思いで、これをまとめさせていただきました。

司会 引き続き、いただいております森脇さん、できるだけたくさんの発言をお願いしたいと思いますので、ぜひ手短かにお願いいたします。

森脇 宝塚市の住民ですけれども、三田に一番接している大原野という地域に住んでいるものでございます。

最初に、今発言された方のダムがとおっしゃった、それはどういう形のダムか、ちょっと聞かせていただきたいと思います。

吉田 穴あきダムという、前回そういう発言があったので、そのまま使わせていただいたんですが、要は、水をひたすらためるのではなしに、水量が一定量を超えたらとめるような、例えば、100立米は流れるけれども、200立米は、超えた100立米はどこか上流にためておくとかいう形で、そのままほうっておけば、ずっと川下に流れてしまう。流量を一定量を超えないような形にするような……。

森脇 その前提で……。

吉田 その前提です。いつもためておくわけではないんです。

森脇 貯水池じゃなくしてね。ありがとうございました。

私、千苅水源地、これは貯水池なんですけど、その沿岸に住んでいるものでございまして、このたびの台風を経験した上での考えが、何と自然というものは怖いものやなど。100年に1回ということやけれども、余りにも被害の大きいのに驚いている次第です。

それにつきまして、三田市域の北摂整備局という事務所があって、開発もされるし、それに伴ういろいろな変化を勘案された上で、ため池も、崩れないように強固なものにされておりますし、水路にしても、そのとおりでありますので、住宅というんですか、家そのものの洪水による被害は、以前はあったそうですけれども、このたびは全くなかった。耕地も、そういう排水、洪水の流れるようにしてある関係で、大助かりで、被害はなかったように思います。

それに引きかえて、下へ下がっていきましたら、有野の方からとか、幾つかの合流点に

なると、洪水のために堆積したんでしょうが、内カーブのところにとくさんの土砂があって、行きますと、もう5センチ水が出たら、この辺はつかってしまふんだと、道場の生野の駐在さんが話を聞かせてくれましたけれども、間一髪のところまで追い詰められたような状態であります。

武田尾へ行きましたら、被害があって、皆さんにも援助してもらったようなことですが、けれども、もともと水の流れというものは、狭いところへいけば、水かさが上がるのは当然だし、今おっしゃったように、下の方へ行けば、堆積して天井川になっているという現状の中で、年寄りなりに考えますと、田んぼを遊水地にとかいうような案もあるけれども、果たしてどれだけの効果があるんでしょうか。ここを委員さんいろいろと検討してもらって、一つの数字で考えていただきたいと思う点が1つです。

と申しますのは、千苅のダムと私どもの上流との間に水平に水がたまっているところへ洪水が出てきたときに、羽束川と波豆川と2つありまして、波豆川の方は小さくて、羽束川は大きいんですが、雨量は、集水面積に応じて一緒やったと思いますけれども、羽束川の水が波豆川の水をせきとめたような状態で逆流してきて、4メートル近く水かさが上がったんです。そうすると、私は、水平やから、下では同じように3メートルでダムの上を越しているのかと思いましたが、水平のところを流れていくということは至難なことで、2時間ほどしてからダムに流れ落ちるといようなぐあいやそうです。そうすると、仮に流れるぐあいは別として、あの大きな面積で、4メートルとしましたら、倍の面積をもってしても2メートルですので、ダムの何のというようなことは、自然には勝てないと思います。ですから、今おっしゃったように、しゅんせつを徹底的にして、常時川を守っていくような方法を講じていただきたい。また、これは数字においてははっきりと確立できると思うんですが、幅も、本当の適正な、住んでいる人の利害関係と言わずに、川を基点に置いて、行政が静かに流れていく武庫川をしっかりとつくるためには、その辺の考え方が必要やないかと思えます

私は、忘れた時分にまた災害が起きるんじゃないかと思うんですけれども、昭和20年のときに大きな災害があって、その少し前、昭和13年ごろに、さっき申しました生野と武田尾の間に道路がつくられまして、地元は便利になった、よくなったということで喜んだんですが、20年10月8日の台風で、その道路がほとんど流れてしまいました。残ったのは、今もありますもとの武田尾駅前の温泉橋だけですけれども、その温泉橋たるや、工費の関係か、川幅を狭めたような状態で、高くすれば、川の断面積は一緒だから、あの辺

は勾配もあるしということだったんですが、この間被害を受けて初めて私はわかったことですが、勾配に応じて水かさも同じようにかさんでくるんだから、阪鶴線ができた以前の現状を考え合わせてすると、被害があったというのも、これは、だれとは言わへんけれども、人が自分に被害を受けるようなぜん立てができて、受けたんじゃなからうかと。

そういうような面も思い合やすことができる状態だったと思いますので、そのことについて、いろいろと議論されたりしている上で、多数決とか、そのときの世間の常識とかいうものも、確実なものではない、最善のものではないなという思いがしますので、関係の委員さん方にその辺もひとつ考慮のうちに入れていただければ、幸いと思います。

ちなみに、明治の初めに、糯ヶ坪というところから三田まで、また西宮までを船を通して物を運搬しようじゃないかということが議題に上がって、それが県の方でも取り上げられて成功して、とりあえず三田と篠山の間には運河をつくって船を運航させたそうです。その船が30隻つくって始まったんだそうですけれども、明治の6年ですか……

司会 ご発言の途中で申しわけないんですが、ほかにも発言したい方がおられますので、少しまとめてお願いいたします。

森脇 そういうことであつたんだけれども、わずか2年、でき上がってから10年ですか――に廃航されたような状態です。

こういうこともありますので、その辺、ひとつお互いが譲り合った線で、何とぞいい結果を出していただきたいと思います。委員の方々に何分にもよろしく申し上げます。

それと、武庫川支流の千苅ダムについてのことも、ひとつ安全のために考慮してやっていていただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

司会 歴史的なお話をありがとうございました。

もう一方、疋島さんからご意見をいただいておりますので、手短によろしく申し上げます。

疋島 きょう、コピーを30部しか持ってきておりませんでしたので、委員の方には全部お渡しいただいていると思うんですが、参加者の方、申しわけないですけれども、お帰りになって、ホームページとかで見ていただけたらと思います。

実は、ことしの1月22日に京都で開かれました淀川水系流域委員会の中での意見書ということで、事業中のダムについての意見書です。委員の方もお読みなっている方がおられるかもしれませんが、その1ページの裏側を開いていただいて、まず「はじめに」

の下から2行目のところですがけれども、淀川水系流域委員会は環境・治水・利水面からみたダムについての基本的な考え方を示したと。これは河川法と違いまして、環境がトップに来ているということをやっと考えていただきたい。この委員会についても、環境を考えていただけたらというのが私の思いでございます。

それから、同じ1ページの下から3行目、「要するに、ダムは自然環境に多大な負の影響を与えるため、自然環境の保全・回復という視点からダム建設は基本的に避けなければならない。自然環境への影響の全貌の詳細とダム建設との因果関係が立証されなくても、不可逆的で重大な負の影響を及ぼす恐れがあると考えられる場合には、たとえ治水あるいは利水の面からダムが必要と判断されても、予測原則に則りダム建設を極力回避するようしなければならない。また、人為的に改変された自然環境を新規ダムにより改善しようとするには論理上の疑義があり、改変行為そのものの見直しを基本とするべきである」と。

要は、ダムのかわりに違う、例えば魚道をつくるとか、そういう手法は間違いですよということを淀川の流域委員会の方は言われているわけです。これはどなたでもホームページで見れますが、全体の意見書も同じようなスタンスで書かれております。

先ほどちょっと話しました河川レンジャーについても、行政と市民の間に入る組織というのが大事であると。私、伊丹市の地方公務員ですので、国の河川については国が管理する、県の管理する河川は、県だけで管理していいというようなスタンスじゃなしに、地方公共団体がどういうふうな取り組みを今後していくのか、市民との橋渡しをするような役目を持っていかなければならないというふうな形で考えております。その辺をこの委員会についても同じように考えていただけたらと思っています。

もう1つ、ほかからの資料ばかりで申しわけないんですけども、先ほど教育の關係のことにちらっと触れましたけれども、去年の7月に環境教育の推進法というのができております。その中に具体的には、土谷委員もエコクラブの事業をされているということでしたけれども、こどもエコクラブ事業、森の子クラブ活動推進プロジェクト、子どもの水辺再発見プロジェクト、地域交流拠点水辺プラザ整備事業、ゆうゆうの森の設定等の子供の自然体験活動、その他の体験活動を充実させ、生き物調査等による体験活動の機会の確保を図りますというのが、環境省と文部科学省の形でパフレットをつくられています。

その表紙に書かれているのが、「つながりに気づき、あなたから始めよう」と、まさに今言われていました上流と下流のつながりをどう生かしていくか、単に敵対意識だけじゃな

しに、上流側のプラスの部分、下流側のプラスの部分をお子たちにも十分教えながら、自分自身から始めましょうと、これは私個人にも必要な言葉ではないかと。この委員会も、そういうふうな気持ちを持っていただいて、最終議論がなされても、先ほどの吉田さんが書かれているように、結論が出たらそれで終わりということではなしに、県のやる事業評価をこの委員会が担っていただきたいというふうな感じで思っております。よろしくお願いいたします。

司会 ありがとうございます。それでは、予告以外の方々からのご発言をお願いしたいと思います。

大日向 宝塚市の逆瀬川というところから来ました大日向と申します。

上流の方々から、とても具体的な例を出していただきながら、いつも想像で考えておりますことがいろいろはっきりわかりまして、とてもうれしく思っております。逆瀬川というのは、下流に属するのかもしれませんが、宝塚市で、今ちょっと起こっている具体的な例を出して、総合治水の観点から、今委員会で、数字のことが、4,800とか、100年に1度とか、いろいろ話されておりますけれども、その前に周りで、口の中に例をとりますと、虫歯がたくさんあるのに、前歯を1本金歯にしようか、プラチナにしようか、それとも何にしようかと考える。その前に、まず小さな虫歯もちょっと見てやろうというような形で、総合治水という観点から委員会が話し合いを進めていただけたらいいと思います。

この例を申しますと、今宝塚の逆瀬川の駅の50メートルぐらい、ほとんど線路に沿ったところと言ってもいいぐらいなんですけれども、大きな宅地開発が行われているんです。それは、上流の丹波やなんかの大きさに比べたら小さい、2万坪程度のところなんですけれども、かつてはある銀行のグラウンドだったんです。そこにため池が2つございまして、あとはグラウンドで、グラウンドの周りは森になっておりました。

具体的に申しますと、開発前は、山地が4,335平米、池が7,503平米、グラウンドが5万3,696平米、全部で6万5,534平米という大きさのところでした。それを今全部むいてしましまして、ため池も全部つぶして、まっ茶色な地面だけ出ているところになっております。その開発後の結果は、山地が1,486平米、池が600平米、宅地が、ここは開発した後に戸建ての住居が217戸建つ予定になっておまして、6万3,448平米ということで、池が7,503平米あったところが600平米になるわけです。600平米という池は、ただ公園みたいな、皆さんが集まって、ちょっと憩いの場所にすると。これが自然の池のまま残

されるのか、あるいはコンクリ張りの池みたいな水たまりになるのか、私まだちょっとわかりませんが、とにかく非常に小さなものになっていきます。

この問題は、流出係数 - - 雨が降ったときにどれだけ川に流れていくかという係数が、開発前が 0.897、開発後が 0.847 というふうになっています。これがとても理解できないんです。たまたま航空写真がありまして、開発前の上から見た姿と開発後の上から見た姿が、もう緑と茶色という変化が起きているのにもかかわらず、流出係数がほとんど変わらない。私、市に行って聞いてみましたら、池はため池だったから、グラウンドとほとんど同じ流出係数として考えるんだというふうにおっしゃるんです。

私たちは、そこに住んでおりますから、その池がどんな池で、いざ雨が降ったときにその池にどれだけ水がたまって、そしてどれだけ川に流れ出ていったかという姿を見ているわけなんです。そのグラウンドから、逆瀬川に流れ出る水路から、雨のときにすごい水が出てきて困ったということは全然ないんです。そこに小さな水路がついていたけれども、ほとんど機能していない。ということは、あそこのグラウンドの敷地に降った雨がほとんどそのまま浸透して池に行くとか、下に行ってゆっくりゆっくり川に流れ出て、いずれは武庫川に流れ出ていたということなんですね。

今度はグラウンドのために小さな水路をつくりました。でも、流出係数に従ってつくった水路ですから、小さなものなんです。高さが 0.7メートルから 70センチ、横が 1.7メートルから 170センチで、それだけの大きなところのものを引き受けて、逆瀬川に流して、逆瀬川からまた下の武庫川に行くわけです。私、流出係数の値がちょっと理解できないし、いざあんな小さな口から出切れないで、どこかへ逆流してはみ出した場合に、駅の方に向かって低くなっていますから、そっちへどんどん.....

司会 済みません。ご意見をちょっとまとめていただくとうれしいと思います。

大日向 済みません。私が申し上げたいのは、そこだけだったら、まあしょうがないかなということかもしれませんが、そういうことが、あっちでもこっちでも現実起きているわけですね。それが全部集まったら、すごい負担になるわけです。それが直接川に流れて行って、またすごいことになる。

だから、川の中で、洪水をどうしようこうしようというふうに議論されるのももちろん大事ですけども、その前に、周りでそういうことが起きているんだと、そこをまずよく考えて、市の方も、県の方も、そういうときにちょっと待て、こういう手だてをなさないというようなことを早めに手を打っていただきたい、そういうふうに思っております。

土谷委員 前半の方で、護岸工事の話が出ていまして、コンクリートで固めた川で、だんだん生き物が減って、子供が遊びたくなるような場所が減ってきた、親水ゾーンと呼べるようなところも、都会のプールみたいなところで、おもしろくないというような意見が出ていたと思うんですけども、尼崎から宝塚までは、もう護岸工事が終わっていて、これからするところというのは、残りわずかになってしまっているんです。

ことしぐらいからそろそろ計画しようというところが、宝塚からちょうどリバーサイド住宅のある武田尾溪谷の下流端の2キロちょっとのところ、そこをことしあたりから計画して、護岸工事が始まるそうなんです。県の方からどんなふうにするか提案が出て、住民と話し合っただけで決めると言われているんですが、それを私は、みんなの知恵を出し合っただけで、いい護岸工事をしたらいいと思うんですよ。でも、地域住民しか参加できませんと言われたんです。あそこは都会に近いところですので、子供が遊べるような川づくりをするためには、地域住民だけじゃなくて、もっと自由にいろんな人が参加して、先ほどの川レンジャーの話とかそういうのも入れて、いい川づくりをした方がいいと思います。

これからするところはもう少ししかないんだから、地域住民以外の人も参加して、どういふふうに護岸工事をしたらいいかというのを話し合えるようにしてもらいたいと、県に要望したいと思います。

千代延 吹田の千代延と申します。

きょう、上流の方にいろんな面からの実態を教えてください、大変ありがたいと思っています。森林の整備とか、田んぼの貯水機能とか、ため池の問題、普通考えれば、国で言うと、農林水産省に関係する、そちらの守備範囲だと思います。兵庫県のその分野の名前はわかりませんが、前にも意見が出ていたと思いますが、武庫川整備計画というのを立てるのに、きょうの意見をお聞きしてありましても、農林水産部との縦割り行政の壁を越えなければならないところが非常に多いと思うんです。この前も、11回の委員会ですか、知事が出て、縦割り行政を克服してやるから、どんどん言うてこいというようなええ格好をおっしゃってありましたけれども、少なくともこういう会議、それから通常の委員会に、河川局だけではなくて、農林水産部のだれか、1人や2人は出ていただいて、関連する実態をよく把握し、後、連携して、整備計画がいいものとして企画立案されるように、その前準備として、今からでも出席していただけるように、ひとつご努力をお願いしたいと思います。

池邊 リバーサイドから参りました池邊と申しますけれども、前回もこの会に出席させ

ていただきまして、皆様のご意見をいろいろと参考にさせていただいて帰らせていただいたんです。先ほど土谷さんの方からお話がありましたように、上流の方の河川はいろいろなものを考えているとおっしゃいましたけれども、リバーサイドの住民、私たちのところには、10月20日の水害の後で、何らのこともまだ声が上がってなくて、今日に至っています。

あの水害以降に川底がすごく浅くなっておりまして、ちょっとの雨でも、パラペットはもちろんのこと越えて、すごい量になるんです。ですから、県の方に考えていただきたいのは、そしてこの会の方からも助言していただきたいのは、少しでも早く土砂をとるなり川底をしていただかないと、5月、6月、梅雨がもう目前に迫っております。そして、このごろは、水害といったら、台風とかそんなんじゃないで、今世界的にいろいろな水害が起こっていますよね。ですから、これは本当に切実な願いです。

個人的になりますけれども、12月末に家に帰りまして、やっと畳の上で生活できるようになりました。今はまだ家の片づけに追われておりますけれども、今雨を見ると、いつ今度こんな目に遭うのかなということが頭の中をよぎります。皆さんも今おっしゃってくださったように、本当にいろいろな方からお声をいただいておりますが、一日も早くまだ手つかずのところの川ざらえとか、いろいろな面で川幅を広げるなり、県の方でちゃんと対策をとっていただきたいと思いますので、皆様のご助言、そしていろいろな面でアドバイスをいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

玉尾 リバーサイド住宅の近くの生瀬地域に住んでいる玉尾といいます。

今リバーサイドの方が発言されましたように、雨が降ると仕事をしていても手につかないという状態がずっと続いているわけでして、12月には、リバーサイド自治会が全戸署名をつけて、西宮市議会議長あてに全戸移転をとという内容の請願を出されて、西宮市議会では全員賛成で採決をされたと。

こういう状況ですが、兵庫県の方は、当初、昨年末までにリバーサイド対策を発表するというふうに住民に言っていましたが、年末ぎりぎりになって、3月末までにということ、まだ結論は出せない。ということで、住民の方は、家の手入れをほとんど自分の負担でやっておられるわけですがけれども、一体先どないなるのかと、日々不安な状態にあるわけです。

私は、今回の台風、またリバーサイドの2回にわたる被害について、兵庫県が一体どういう総括をしているのか、県の責任があるのかないのか、どういうふうに責任を感じてい

るのかということが本当に疑わしいと思うんです。私どもの近所では、ようあんなところに兵庫県は住宅の建築許可を与えたなど、みんな言うわけです。今回の災害は、まさに兵庫県があんなところに開発許可を与えたことによって起こったことだと思います。それならば、全面的に住民の方の要求に沿って、兵庫県は即実行すべきだと思います。今回、住民の方が出された全戸移転の要求に沿って兵庫県は直ちにアクションを起こし、ことしの来るべき梅雨や台風に向けて、それまでに解決の方向なり具体的な手だてを尽くさなければ、またことし同じことが起こる危険性は十分にあると思います。

きょうは兵庫県の幹部が来ておられないようなので、まことに残念ですが、議事録に残していただいて、兵庫県は自治会の要望に沿った方向で即行動を起こすべきだというふうに私も強く思います。

奥西委員 私は、山地の方を中心にした防災のことをこれまで研究してきたから思うところが多分にあるんですけども、上流部の水害というのは、生命の危険を直ちに引き起こすという特徴があるように思います。単に水がついて困ったというだけで済まない。氾濫すれば、直ちに命が危ないというところがあります。そういうこともありますので、この治水計画の基本を考えるにあたって、まず命を守ることが大事だと思います。多少私の意見は極論的かもしれませんが、物はともかく、命を守る治水をやらなければいけない。もちろん、人間はかすみを食って生きているわけではないので、命さえあれば、物が何もなくても構わないということには決してならないので、その辺も考えないといけないと思っております。

それから、地域差というか、地域の違いということについて、きょうも非常に具体的な話が出たので、参考になりました。例えば、上流部ではこういう治水が一番いいのではないかとか、そういうことを考えていく材料にできるんじゃないかと思っているんですけども、やはり基本は命が大事だと思っております。

歴史的には、これまで水害で困っている人が余りにもたくさんいて、どうやってどこから手をつけていくかというふうに困るという状態でしたので、必然的に大きな川中心、同じ川でも、下流部の方がたくさん住んでいるところからやっていくということは避けられないことで、上流部の方は、もうちょっと待ってくれ、もうちょっと待ってくれで来たわけですが、ここへ来て、基本的に考え直すというときにも、そうであってもいいのか。つまり上流部の方が永久に辛抱させられるのかということになると、当然話が違ってくるのか、永久に辛抱しても構わないと思っている人はだれもいないわけで、その辺につい

でも委員会で考えていきたいと思います。

私の意見は、少し極論的なところがあると自分でも思っておりますが、皆さんの意見をお伺いしながら、委員会で審議していきたいというぐあいに考えております。

安留 篠山の安留です。

ちょっと委員会にお願いなんです、9回的时候に、ワーキンググループを立ち上げられました。主査 - - 責任者が決まって、その委員構成と話し合いというのがこれから進められると思うんですが、準備会議の中でも、委員を固定するのか、それとも必要に応じて分科会というような形にして、それ以外の人たち、委員を補充していくようなことがあるのかということがちょっと論議になったと思うんですね。

こういうふうに委員会を具体的に進めていくとすれば、きょうここに来られた人たちも、十分関心を持っておられる人がいると思うんですね。そういうワーキンググループをつくる時に、今の流域委員会の委員さんだけじゃなくて、例えば、公募のときに大変多くの人たちが募集に応じたと思うんです。一定の意見、論文も出したというふうに聞いています。その中で、その問題について関心を持っている、例えば環境に関心を持っている、まちづくりに関心を持っている、治山、農地に関心を持っている、まあ言えば、専門的な意見も期待できるというふうな人たちがもしおられれば、そういう人たちもメンバーに加えて話をするというふうな考え方はないのかどうか、ちょっとお聞きしたいと思います。お願いということでしますので、検討していただけたらと思います。

司会 ありがとうございます。

時刻を30分延長しましたがけれども、まだもっともっとということだろうと思いますが、とりあえず本日は、ここまでのところでリバーミーティングを終わらせていただこうかと思えます。

きょうのリバーミーティングの内容につきましては、前回のリバーミーティングからそういう形にさせていただいているんですが、こちらにおられる編集委員の佐々木さんの方で、発言のポイントをまとめていただいて、ニュースレターに記載するような形になっております。恐らく第4号に載ることになると思いますので、そちらの方もぜひごらんいただきたいと思います。また、委員長の方から後ほどご案内があると思いますが、次回もリバーミーティングがございますので、きょう南の方が篠山の方まで来ていただいたように、北の方にもぜひ来ていただきたらなというふうに、司会の個人的には思います。

それでは、委員長の方にお返ししたいと思います。

松本委員長 どうもご苦労さんでした。3時間、長いようで、大変短い時間だと思えます。ただ、一度にこういうのをすべて議論するというよりも、冒頭に申し上げましたように、このリバーミーティングは、毎月というのにはちょっとしんどいなということで、今のところは2カ月に1回のペースで開くようにさせてもらっております。いろんな機会をとらえて、皆さん方と意見の交換をしていくというふうにさせていただければと思っております。

きょうは私が別に議論をまとめる立場ではございませんので、きょうお伺いしたご意見、問題として提案されたご意見は、これからの流域委員会の中で、しっかりと議論の俎上に乗せていきたいということで、1つ1つのご意見に関してはお答えするということは省かせていただきますが、私の方からは、きょうの話をお聞きして、3点だけ申し上げて、最後のまとめにかえさせていただきます。

まず第1は、特に前段の議論でありましたように、何しろ本川だけで70キロ近い流域があるわけです。源流域から河口まで、様相がさまざま違う。これは武庫川に限らず、川の問題というのはどこも、上流、下流、あるいは中流、それぞれの土地利用、あるいは住民の川とのかかわり合い方に違いがあります。そういう意味で、上流と下流の対立とか、利害の関係というのは、水利権の問題も含めて、常に存在している。全国の川、どこへ行っても、同じ問題を抱えているわけです。しかながら、私たちは、川づくりというのは、利害調整するのが仕事ではないと思っております。

流域の上流から下流までが、お互いにこの川、天から降ってきた雨が地上に落ち、そしてそのまま表流水として流れ、あるいは地下に浸透して浸出してきて流れる。その水で、私たちは暮らし、生きていく糧にしているわけです。まさしく水の循環、その水が川を経て海へ流れ、蒸発して、また雨となって落ちてくる。この水の循環の重要な機能を果たしている川に対して、上流や下流やというちっぽけな利害で対立していたのではどうにもならぬだろう。流域委員会というものは、そういう対立する構図から、連携して協働していく、一緒にこの川をどうしていったらいいのか、そして何よりも大事な水と水が時には大暴れして災害を起こす、これをうまく制御していくというふうな仕組みをどうすればいいのかということを実体的に考えていくことが任務だと思っております。

そのためにも、委員会だけでそんなことを議論していてもだめなので、流域の皆さん、あるいは自治体、そういうところが一緒になって、連携と協働する。対立の構造図式から、連携と協働の図式に変えよう。例えば、ダムの問題をめぐるっては、長年河川行政と住民が

対立してきた。私たちは、この武庫川ダム計画の行政と住民の対立の調整をする役割を担っているとは思っておりません。計画そのものはリセットされたんですから、これは一たんリセットして、新しくどのようにこの武庫川の河川治水計画をつくっていくのか、私たちはゼロから議論する立場ですから、まさしく行政と住民との対立の図式で議論するのはやめようというふうな気持ちでやっております。そういう意味で、皆さん方も一緒にそういうふうな議論に加わっていただければと思っております。

2つ目は、やはり総合治水ではないかと思えます。具体的に幾つかご指摘がされました。私たちも、第1回的时候から、総合治水というのは、委員の皆さん方の頭の中にしっかり植えつけてられている。そして、その総合治水は、建前としては政府の、国の、あるいは兵庫県の方針にはなっているけれども、具体的な各論としては緒についていない。なかなかそうはっていない。ご指摘がありましたように、じゃあ兵庫県の組織が全部それで動いているかということ、動いていないのが現実であります。それを動かしていくためには、委員会の議論がそこに向かうことも大事であります。流域の住民の皆さん方も、その観点から、さまざまところで声を上げていただくということが大事かと思えます。私たちは、流域の住民の皆さんから何か付託されて、委任を受けて、請け負いでやっているというつもりは毛頭ないです。私たちの議論は、日々の住民の皆さん方の発言、声を受けながら、どのようにそれを集約していくのかというところの議論をするのが任務と思っております。

リバーサイドの住宅の問題についてもございました。あるいは、山の問題がありました。こうした問題というのは非常に大事だと思っているし、治山、治水を除いて国を治める政治というのはあり得ないと思っておりますから、その大もとである治山、治水も含めて、あるいは都市の開発も含めて、非常に大事な課題と理解をしておりますので、そういう観点で、ご一緒に議論できていければと思っております。

最後に、3つ目は、きょうも何人かの方からご指摘をいただいております。要するに、武庫川流域委員会というのは、何でもかんでも持ち込んだら、全部やってくれるかといったら、多分それは無理だろう。私たちは、兵庫県が設置した武庫川の整備計画の基本方針と計画を策定する任務を得て、委嘱されているわけです。一定の期限もございます。我々が任意の団体で、我々が10年間やれと言ったら、10年間やれるというふうな組織ではない。じゃあ、武庫川流域委員会が計画を策定したら、それで終わりか、武庫川の川づくりというのは終わるのかということ、決してそうではない。

私たちは、武庫川づくりというテーマを掲げて、リーフレットにも、あるいはニュース

レターにも、武庫川づくりというタイトルを採用しました。これは、整備計画をつくるのだけが武庫川づくりではなくて、武庫川づくりというのは、整備計画の策定以降、いよいよ本番を迎える。そういう意味では、永久に川とかかわっていく活動を続けていく。そういうふうな仕組みをつくっていかねばならないと私は思っております。ただ、そこまでの議論はまだしておりません。とりあえず計画をつくらないといけませんけれども、その計画を策定した後、この川づくりにどのように流域の住民、そして行政と住民が一緒に取り組んでいくのかという組織づくり、あるいは具体的な提案も盛り込まねばならないのではないかとこのように私は考えております。

武庫川流域委員会は、諮問機関であります。そして、この流域には幸いなことに、20年間さまざまな形で取り組んでこられた、川にかかわる住民、市民の団体がたくさんあります。私は、千種川の圏域清流づくり委員会というものの設立と活動にもかかわっておりますけれども、あそこの場合には、どちらかと言えば、武庫川ダムのような対立課題がなくて、住民が川にかかわるといふ運動がなかなか起きなかった。それを無理やり2市8町で連携しようという形の組織づくりを行って、4年目に入っております。流域の住民が連携して、行政も協働して、どうやってこの川を、自分たちが親しみ、孫子の代に伝えていくかということで、さまざまな活動をしています。私は、武庫川でも、諮問機関と運動団体のほかに、流域で連携協働していく、武庫川のさまざまな問題に取り組んでいく別の組織が生まれてほしいな。流域委員会は第三者機関でありますから、そうすると、より流域委員会の機能、役割が明確になってくるんですけども、今のところは、何でも流域委員会へ持っていったらどうやという話で、けり込まれかかっておりますので、これではなかなかうまく進まない。むしろ、行政 - - 県と市、町というのがあります。この場合は市ですけども、この連携、そして住民と行政との連携、そういうふうな組織を住民の皆さんが設立していくような機運がこうした場から生まれていくことを願っております。

最後にご質問されました委員の補充云々も、そんな中で問題を考えていかなければ、委員会の人数を限られた日数の中でさらにふやしていったということでは、なかなか審議が進まない。そういうふうなことも念頭に置きながら、これからの審議を進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

司会 それでは、前段のところでは話が出ました見学場所の地図が出ておりますので、その件について、少しご紹介いただきたいと思います。

八木下 ちょっと時間がおくれていまして、大分暗くなってしまうかと思いますが、場

所を説明します。

武庫川が青でかいてあります。ここが三田市と篠山市の境です。茶色い線が国道 176 号です。ここから一たん西に出て、176 号を南へ下っていただきます。草野駅を過ぎて、近畿道の背の高い橋梁の下をくぐりますと、橋を渡って、右カーブして、峠を上って、おりかけて右カーブして、左へカーブしたところの左手に、工事現場への入り口があります。きょう現場の方に連絡してあけてもらっていますので、ちょっと足元が悪いですが、そこへ車に入っていただけたらと思います。

カーブとかもきついところですので、くれぐれも安全に気をつけてお越しいただければと思います。5 時 15 分ぐらいには私も行けるとお思いますので、来られた方には説明させていただきます。

司会 ありがとうございます。

それでは、これにて第3回のリバーミーティングを終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。